KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL
NEWS
VOL.26
2015.9
九大病院ニュース

CONTENTS

2 特集／九州大学病院の「国際医療部」をよろしくお願いします！
国際医療部　副部長／教授　中島直樹

4 連載／九州大学病院のTR
がん幹細胞を標的とした進行非小細胞肺がんに対する新たな治療開発の試み（サラゾスルファピリジンの医師主導治験）
九州大学ARO次世代医療センター／呼吸器科 講師　岡本　勇

5 小児医療センター内に小児漢方外来を開設しました
小児外科、成育外科、小腸移植外科 助教　宮田 潤子

6 こがデンタルクリニック
院長　古賀 康雅

医療連携センター紹介
医療連携センター 副センター長／看護師長　村上 弘子

7 栄養サポートチーム研修会報告
―栄養補助食品の使い方―
NST委員会副委員長／心療内科 講師　河合 啓介

九州大学病院の乳腺疾患診療
―円滑な病診連携を目指して―
乳腺外科(2) 助教　山下 奈真

8 学会・セミナーのご案内

第6回アジア遠隔医療シンポジウム（2012年開催）

特集 九州大学病院の「国際医療部」をよろしくお願いします!

国際医療部　副部長／教授
中島　直樹

国際医療部とは?

九州大学病院はこの4月1日に「国際医療部」を新設いたしました。国境を越えた人的な国際医療交流を進め、さまざまな視点から情報を発信・収集し、また、国際的な社会貢献を行うことが目的です。

国際医療部は3つの国際部門（センター）から成ります。まず1つ目は、アジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）です。TEMDECは2003年から現在まで12年間もの歴史があり、ITを駆使して全世界52か国382施設と計525回（2015年3月末現在）の遠隔医療イベントの経験を持つアジア随一の遠隔医療センターです。安全・安価に高品質の動画を海外へ双方向送信することにより特に発展途上国に対して内視鏡手術などの最先端の医療技術を紹介したり、各国の医療課題などに関する深い議論を行ってきました。近年は、患者さんと医師の間の遠隔医療相談も開始しています。詳しくはHPをご覧ください（http://www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp/index.php）。

2つ目は、2005年から活動が始まった国際診療支援センターです。海外や日本に滞在中の外国人、および海外滞在中の日本人を対象に、九州大学病院やその他の大学病院への受診の支援を行い、高度な医療を迅速・スムーズに提供することを目的としています。すでに英語と中国語の医療通訳者がスタッフに入り、海外からの患者さんが困らないように各診療科に所属する国際担当医師と連携したり、病院内の表示や診療に関する文書類を翻訳しています。もしも海外在住の日本人や国内外の外国人の患者さんで九州大学病院をはじめとする先進的医療への受診をご希望の方をご存知でしたら、窓口HPをご紹介ください（http://kokusai.hosp.kyushu-u.ac.jp/）。3つ目は、今回新設された海外交流センターです。世界の国々の医療者同士の交流を支援し、国際的に活躍する医療者を育成します。海外からの視察の受け入れや、九州大学病院への訪問・研修のお手伝い、九州大学病院との姉妹病院提携やビザ申請を含めた来日手続きのお手伝いなどを行います。

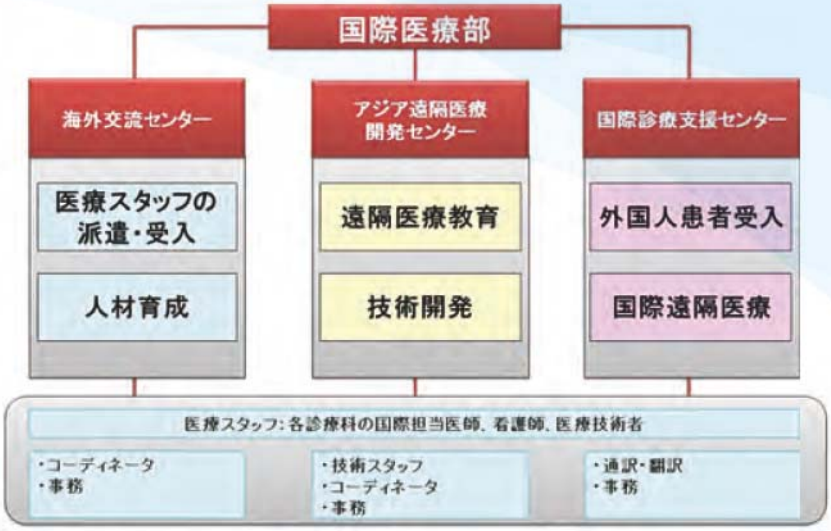
なぜ九州大学病院が医療の国際化を?

もともと福岡は、東アジア・東南アジアに近い、という地の

利から国際化活動が盛んな土地柄です。九州大学も国際化を大学の方針の一つに掲げ、特に九州大学病院は、福岡国際空港からも博多港国際ターミナルからも車で15分程度と、国際環境に恵まれた立地にあるため、早くから国際化志向を持って歩んできました。福岡県と福岡市は共同で地域に対して医療通訳を提供するアジア福岡医療サポートセンターを運営していますが、九州大学病院はその活動の拠点病院に指定されています。また今年の初めには、厚生労働省の「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」の全国10拠点の一つに選ばれました。さらに、全国国立大学医学部附属病院長会議において、2013年度から九州大学病院が国際化担当校となり、全国的な規模で大学病院の国際化を推進する立場も担っています。

一方、東南アジアを中心とする海外からも大きな期待が寄せられています。TEMDECの長年の活動により多くの発展途上国の医療者・研究者が日本など先進国の高度な医療技術を低コストで学ぶことができるようになり、各国の医療の発展に大きく貢献してきましたが、“さらに多くのことを学びたい”との熱いリクエストがTEMDECに届いています。

これらの周囲の環境や行政および全国の国立大学医学部附属病院のあと押し、さらには世界各国からの期待もあり、九州大学病院は医療の国際化を強く進めているわけです。



国際医療部の組織図

外国人患者を迎えるときに何が課題となるのか？

外国人が日本の医療機関を受診する場合の最大の問題点は、言葉の壁です。外国人でなくても患者さんとのコミュニケーション不足は医療における最大のリスクです。観光地案内ならば問題の少ない誤訳も医療の場合では大変です。あらかじめ、外来・入院案内や料金規定、あるいはインフォームドコンセント文書などを主要な言語へ翻訳しておくことや通訳を迅速に手配する準備をしておかなければなりません。医療通訳者の養成が急務であることは全国的な課題として挙げられています。

また、医療費支払いもトラブルの元になります。日本の公的医療保険を持たない場合には全額が患者さん負担となるため、あらかじめ概算を伝えた上で、支払い方法を速やかに確認しておく必要があります。規定などを整備しておけば一定の前金をいただいておくことも可能です。

さらに、外国からの受診希望の場合には、新型インフルエンザや、SARS、最近ではMERSなどの新興感染症や、多剤耐性菌の輸入を促進してしまう可能性があり、これをいかに防ぐか、輸入が判明した時点でどう対応するか、などを考えておく必要があります。

国際医療部3センターの一つ、国際診療支援センターでは、このような課題に対する啓発や解決に向けて日々努力を続けています。

国際医療部への応援を！

3つのセンターから成る国際医療部には、2015年度中に専任の教授、続いて専任の准教授が着任する予定で、さらなる活動のパワーアップが期待されています。発展途上国を中心とした国際的な医療の標準化に向けて、そして外国人が日本の医療機関を安心して利用できるような環境を構築するために、九州大学病院・国際医療部ではスタッフ一堂頑張っています。

新しい国際医療部への応援を皆様どうぞよろしくお願いいたします。

連載 九州大学病院のＴＲ

がん幹細胞を標的とした進行非小細胞肺がんに対する新たな治療開発の試み
(サラゾスルファピリジンの医師主導治験)

九州大学ARO次世代医療センター／呼吸器科　講師
岡本　勇

肺がんの薬物療法

肺がんはわが国におけるがんによる死因のトップを占める極めて予後の悪い疾患です。診断時にすでに進行している患者さんが多く、このような場合には抗がん剤による薬物療法が治療の主体となります。薬物療法による治療成績は徐々に改善してきていますが、薬物療法によってがんが縮小しても、一定の時間がたつと再び増大したり他の臓器へ転移したりする再発の問題があります。

がん幹細胞とは

がんの中には「がん幹細胞」と呼ばれる、抗がん剤に抵抗性（薬が効きにくいこと）を持った細胞が存在し、治療で一度は小さくなったがんがその後再び大きくなるのは、このがん幹細胞を除去できていないことが原因の一つだと考えられています(図1)。

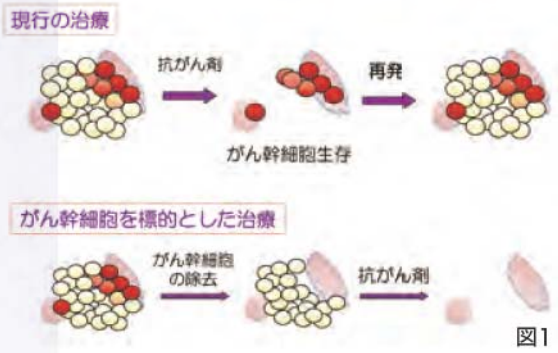


図1

慶應義塾大学医学部先端医科学研究所の佐谷秀行教授の研究グループは、がん幹細胞は、細胞の表面にCD44vという分子を細胞の目印として持っているのが特徴で、細胞膜上でxCT細胞の中へシスチンを取り込むポンプの役目をするタンパク質の働きを強めることによって、がん細胞内の抗酸化物質を増やし、抗がん剤に対する抵抗性を強めていることを発見しました(図2)。

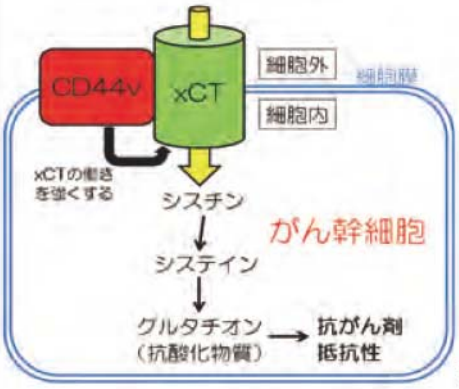


図2

さらに佐谷教授らは、潰瘍性大腸炎という病気の治療薬として使用されているサラゾスルファピリジンという薬がxCTの働きを弱め、がん幹細胞の治療抵抗性を弱めることを示しています。

がん幹細胞を標的とした新しい治療開発

九州大学病院呼吸器科(中西洋一教授)では慶應義塾大学の佐谷教授との共同研究として、進行非扁平上皮非小細胞肺がんを対象に、標準治療であるシスプラチン・ペメトレキセド併用療法にがん幹細胞を標的とするサラゾスルファピリジンを併用する医師主導治験※を2015年4月から開始しました。通常の抗がん剤治療にがん幹細胞を標的とする治療を組み合わせることでより高い効果が得られることを期待しています。この医師主導治験においては、肺がんに対する標準治療として使用されている抗がん剤（シスプラチン、ペメトレキセド）に、治験薬（サラゾスルファピリジン）を併用することによる安全性や効果を調べ、サラゾスルファピリジンの適切な用量（推奨用量）の検討を行います。

※2003年の薬事法改正により、製薬企業などと同様に医師が自ら治験を企画・立案・実施できるようになりました。このような治験を医師主導治験といい、医師自らが医学的に必要性が高いと考える日本国内で未承認である治療薬の開発が進むことを期待されています。

臨床試験登録番号UMIN000017854

本治験の参加候補となる条件
(下記以外にもいくつかの条件があります)

1. この治験への参加について説明を受け、同意文書に署名された方
2. 扁平上皮がん以外の非小細胞肺がんの診断が確定しており、放射線治療ができないIII期、IV期または手術後の再発で、抗がん剤治療をまだ受けていない
3. 同意取得日の年齢が20歳以上の方
4. 全身状態が良好な方(歩いたり、身の回りのことが自分でできる)
5. 登録の14日前以内の血液検査値がこの治験で定める基準を満たし、医師が治験に参加しても問題ないと判断された方
6. 症状を伴う脳転移、および、放射線治療や外科治療を必要とするせき椎転移がない方
7. 経口の薬剤を飲むことが出来る方

治験実施診療科　九州大学病院呼吸器科
(治験責任医師:岡本　勇)
国立病院機構九州がんセンター呼吸器腫瘍科
(治験責任医師:野崎　要)

治験実施支援　九州大学ARO次世代医療センター
連絡先:092−642−5858(平日8:30〜17:00)

小児医療センター内に小児漢方外来を開設しました

小児外科、成育外科、小腸移植外科 助教　宮田 潤子

小児漢方外来開設の背景

近年、西洋医学で改善しきれない症状に対する漢方治療による効果が多数報告され、小児領域における漢方治療への関心は高まっています。1984年に設立された小児東洋医学懇話会を前身とする日本小児東洋医学会は、現在小児科学会の分科会の一つです。また、1993年に発足した日本小児外科漢方研究会においても、例年多数の演題が集まります。また、患者さんからのニーズも増えていると感じます。このような背景から、当院でも小児漢方診療を開始することにしました。

小児漢方診療の特徴

漢方診療では患者さんの全身を観察・診察し、食事・睡眠・排泄・日常生活などについて事細かに尋ねます。病気だけではなく、患者さんの体全体や背景まで把握して診療する全人的医療を行います。このような視点で小児を診察していると、すでに乳幼児期から体質や背景には個人差があり、学童期、思春期と成長してくるとその違いはさらに顕著となります。病状に加え、患者さん個人の違いを考慮し、処方を選択していきます。

たとえば、便秘の治療では、小児でも緩下剤や刺激性下剤の西洋薬による治療が中心です。しかしながら、刺激による腹痛や、便性悪化（泥状便）を伴うこともあり、非生理的な排便を乳幼児期から続けることをご両親が不安に思われることもあります。一方、漢方薬の中には、腸を温めて血流を改善したり、緊張を緩和することで、腸蠕動（ちょうぜんどう）を整えて排便をコントロールするため、西洋薬のような腹痛や便性の悪化が起こりにくいものもあります。便秘に頻用する小建中湯は、元来虚弱小児に使用される薬で、食が細く、病弱な小児の体力向上や夜泣きへの効果も期待でき、便秘のみならず、患者さんの体全体の不調を整えることができます。

小児漢方外来での診療

九州大学病院の小児医療センターでは、重篤な疾患により、さまざまな症状に長期間悩まされている方が少なくありません。原疾患に対しては最先端の西洋医学的治療が施され、そこに漢方治療を加えることで、さらなる症状緩和や治療効果向上に繋がることを目指しています。また、お子さんの症状によっては、育児や介護に疲れて、母親が心身の不調を感じることもあります。このような場合、総合診療科の漢方外来・女性外来と連携して治療を行うことができます。

体の不調があるものの、精査では異常がなく、悩んでいる患児と家族もいます。現代のストレス社会においては、幼児期から心因性の症状が出現することもあります。他科との連携をはかり、漢方治療を併用することで奏効することがあります。

このように、小児漢方外来においては、小児の全人的医療が可能となります。最先端の西洋医学的治療を行っている他科との連携をはかり、さまざまな症状に悩まされている患児と家族の苦しみを軽減し、希望を与えられるような診療を目指してまいります。

問い合わせ先

九州大学病院小児医療センター（小児漢方外来）
電話：092-642-5578（初診・再診ともに完全予約制）

こがデンタルクリニック

院長　古賀 康雅

当院は、2009年開院以来、患者の皆さんに安心、満足していただける歯科医療を提供するよう努めてまいりました。治療前に患者さんの希望などもふまえ、最終的な治療方針を決定していくのですが、「九州大学病院へご紹介いたします」とお伝えすると、重症なのでは・・・など不安な様子を見せられる方もいらっしゃいます。

しかし、当院では大学病院の診療体制についても十分に説明しますので、患者さんに安心して足を運んでもらい、治療後の患者さんからも適切な専門診療科での診断や高度の治療を受けることができたとの声を聞くこともあります。

今後、高齢化が進む未来社会において歯科医療は、ますます重要な分野となります。

診療所と病院が、それぞれの患者さんのニーズに合わせた治療の現実に努め、歯科医療の質の向上に努力していきたいと考えています。

医療連携センター紹介

医療連携センター 副センター長／看護師長　村上 弘子

新体制となった医療連携センターを紹介します。社会福祉士が5名に増え、看護師5名と協力して、より良い退院支援を実施していきたいと考えています。また、それぞれの専門性を発揮し医療福祉相談や在宅療養支援を行っています。がん相談支援センターも医療連携センター内に移転し、さらに密な連携をとることができるようになりました。

国際医療連携室は当センターから分かれ、国際診療支援センターとして新たに発足しました。

現在、当センター内に小児等在宅医療連携拠点事業部を設置し、福岡県から委託された「小児等在宅医療推進事業」の業務を遂行しています。NICUなどで長期の療養を要した子どもたちが、在宅において必要な医療サービスが提供され、地域で安心して療養できるように福祉や教育などと連携し、地域での在宅療養を支える体制を構築するための取り組みを行っています。在宅療養児の訪問看護の拡充のため、小児看護経験のない訪問看護ステーションを対象とした研修会の開催などを計画しています。

栄養サポートチーム研修会報告
―栄養補助食品の使い方―

NST委員会副委員長／心療内科 講師　河合 啓介

NST（Nutrition Support Team）研修会が九州大学病院臨床小講堂2で2015年6月24日に開催されました。この研修会は最新の栄養学を定期的に学習するためNSTチームの活動の一環として2006年から始まり、今までに計88回の会が開催されています。

今回の研修は、栄養補助食品の構成成分による分類や静脈経腸栄養ガイドラインに基づく使用法などの話題に加え院内で頻用されている栄養補助食品の試食会と説明会を兼ねました。

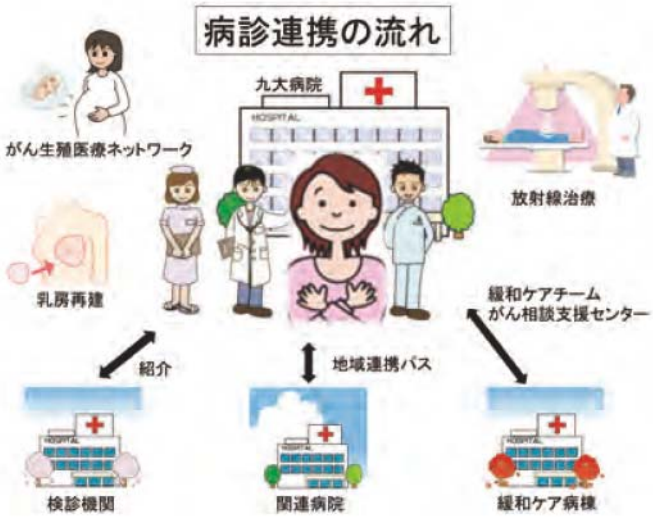
栄養補助食品は数多く販売されています。患者さんの病態に沿った適切な栄養療法を実施するためには、われわれが十分な知識を持ちながら、実際にいくつかの栄養補助食品を比較しながら摂取し、その体験を元に、ベッドサイドで患者さんの対応を行う事が有用と考えました。この企画に賛同してくださる方が多かったのか、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士など院内外の多職種から100名を超える参加者がありました。当日は、用意した食品が不足してスタッフが慌てて補充するなど、嬉しい悲鳴でした。

今回、紹介できなかった栄養補助食品も続く企画の中で紹介する予定です。多数のご参加を頂きありがとうございました。

九州大学病院の乳腺疾患診療
―円滑な病診連携を目指して―

乳腺外科（2）助教　山下 奈真

乳腺外科は診療範囲が多岐にわたるのが特徴です。中でも乳癌は日本の女性において罹患率1位のがんです。診断から治療までスムーズに行うために病診連携は不可欠です。乳腺外科(2)では必要な場合は、スムーズに当院にて治療が開始できるよう関連病院・検診機関との間で病診連携を行っています。また、毎日の通院が必要な放射線治療でも患者さんのニーズに合わせて、自宅近傍の病院との連携を図り、通院の負担を少しでも減らせるよう努力しています。妊娠・出産を考えている患者さんのがん診療において、がん生殖医療ネットワークによる連携は非常に重要です。さらに当院がんセンター・がん相談支援センターとの連携により関連病院への緩和ケア病棟入院もスムーズに行われています。年に2回ですが紹介して頂いた患者さんを中心に、地域医療機関の先生方との勉強会を開き、風通しの良い病診連携を目指しています。患者さんが明るく、前を向いて治療を受けられるよう、スタッフ一同日々努力して参りたいと思います。乳腺疾患についてご不明な点などございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



学会・セミナーのご案内

開催日	大会・会議の名称	
2015年 9月16日(水)	第42回　がんセミナー http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/	【会　場】九州大学病院ウエストウイング棟　臨床小講堂2 【主　催】九州大学病院　がんセンター 【連絡先】TEL:092-642-5890　FAX:092-642-5737
2015年 9月26日(土)	平成27年度福岡県メディカルスタッフがん医療研修会 http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/	【会　場】電気ビル共創館　カンファレンスA 【主　催】九州大学病院　がんセンター 【連絡先】TEL:092-642-5890　FAX:092-642-5737
2015年 9月26日(土)	第53回六大学合同眼科研究会	【会　場】ホテル日航福岡 【主　催】九州大学病院　眼科 【連絡先】TEL:092-642-5648　FAX:092-642-5663
2015年 10月9日(金)-11日(日)	日本心臓血管麻酔学会第20回学術大会	【会　場】アクロス福岡 【主　催】日本心臓血管麻酔学会 【連絡先】九州大学病院　麻酔科蘇生科 TEL:092-642-5714　FAX:092-642-5722
2015年 10月14日(水)	第2回福岡県院内がん登録研修会 http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/	【会　場】九州大学医学部基礎研究棟A棟　講義室1 【主　催】九州大学病院　がんセンター 【連絡先】TEL:092-642-5890　FAX:092-642-5737
2015年 10月23日(金)-25日(日)	NPO法人日本歯科放射線学会　第20回臨床画像大会 http://rinshou20.umin.jp/	【会　場】九州大学大学院歯学研究院 講義室A, B, C 【主　催】九州大学病院　口腔画像診断科 【連絡先】TEL:092-642-6407　FAX:092-642-6410
2015年 10月30日(金)・31日(土)	第63回国際歯科研究学会　日本部会総会・学術大会 http://jadr63.umin.jp	【会　場】福岡国際会議場 【主　催】九州大学病院　顎口腔外科 【連絡先】TEL:092-642-6447　FAX:092-642-6386

[九州大学病院の　理念・基本方針]

理　念

患者さんに満足され、
医療人も満足する医療の提供ができる
病院を目指します

基本方針

- 地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- プライマリ・ケア診療の充実
- 全人的医療が可能な医療人の養成
- 専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- 国際化の推進

平成27年:9月発行
企画・発行／九州大学病院広報委員会
福岡市東区馬出3-1-1　TEL:092-641-1151(代表)

九州大学病院ホームページ
http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK
Fontworks UD FONT